



多胡碑記念館の課題 高速バス優先システム

おたけりょういち
大竹隆一
(新風会)

質問 多胡碑記念館のバリアフリー化、収蔵物の増加、受付不在時の事務室の対応やホールの拡大など諸問題の対策は。

答弁 車椅子利用の方は職員が付き添って案内しており、館内の段差は順次解消していきたい。また、上野三碑のレプリカを展示するなどして、収納スペースを確保したい。受付と事務室の一体化やホールの整備は、大きな改修なので、長寿命化を図る工事等の中で研究したい。

質問 社会科学習の一環として、小・中学生に多胡碑の見学してもらうことは可能か。

答弁 社会科学の教材として身近



中央銀座アーケード、音楽センターの今後 消防団活動協力業者への加算制度

ときたひろゆき
時田裕之
(新風会)

質問 中央銀座商店街アーケード再生に向けた今後の方向性は。

答弁 有志の若年職員によるアーケード街再生プロジェクトチームの再生案ほか、地元商店街の有志の皆さん、高崎青年会議所などから意見をいただいている。現在、これらの案をもとに、先進事例になるような再建が可能かなど、さまざまな角度から検討している。

質問 群馬音楽センターの利用

な文化財を活用することは意義があるので、多胡碑をはじめ市内の歴史的文化財を多くの小・中学生が見学し、学習に活用できるように努めたい。

質問 高速バス優先システムの内容は。また、どのような計画で効果に結びつけるのか。

答弁 高速バス車内の機器を介して交差点手前の感知センサーにより信号機を変動させ、優先的な走行を支援するシステムである。計画では市中心部のほか、高崎玉村スマートインターチェンジ、東毛広域幹線道路に導入することで、高速バスの利便性を向上させて集客を高めたい。

率、利用状況は。また、今後についての考えは。

答弁 平成25年度の利用率は72・4%で音楽による利用が最も多い。また、文化芸術センター開館後の利用については、公会堂としての利用活性化、おもてなし機能の拡充、群馬音楽センターの象徴となる事業、イベントの継続実施など、現行の利用形態を踏まえ、市民に使いやすいものになりたい。

質問 消防団活動に協力している業者が入札参加者の格付で加点される制度の導入は。



地域一番行政の実現 万引き防止対策

きむらよあき
木村純章
(志民たかさき)

質問 地域振興策として、地域の人たちのやる気を起こし、地域の特産をいかに潤わせるかが大事であると考えますが、各地域の特徴をどう生かしていくのか。

答弁 伝統民俗芸能まつりなどの発表場所の提供や伝統芸能備品等修繕費補助事業を創設し助成するなど、積極的に支援を行い、人材の育成も進めている。地域の行事やお祭りは、地域の活性化に大きく寄与しており、将来に継承され、発展していく

交付された。これを機会に、消防団員を雇用していることや消防団活動に積極的に取り組む事業所をどう評価するか、今後、検討を進めたい。

よう引き続き支援したい。

質問 悪いことは悪いと言う指導が大切と考えるが、本市での小中学生への万引き防止対策は。

答弁 警察と連携した万引き防止対策と並行し、生徒指導や道徳教育を中心に心の教育をして



上野三碑の世界記憶遺産への登録 貯水槽水道の適正管理

めてしまみちお
橋島道雄
(新風会)

質問 上野三碑の世界記憶遺産への登録実現に向けた官民一体の取り組み計画は。

答弁 県が研究会を立ち上げ、価値の検証や調査研究をしている。本市にも協力要請があり、一体となって取り組んでいる。今後も県や民間団体と連携し、知名度の向上を図り、国への働きかけなども行いたい。

質問 多胡碑周辺重要遺跡発掘調査の経過と今後の計画は。

答弁 発掘調査は、平成23年度から開始したが、現時点で、多胡郡衙に結びつく遺構は確認されていない。調査期間は、郡衙遺跡の範囲を確認する前期5年

いる。保護者と連携して道徳教育をより一層推進するとともに、法教育を意識した取り組みの充実を図り、万引き防止に努めたい。

質問 高齢者の万引きも社会問題となっているが、高崎警察署管内における年齢層別の件数は。

答弁 平成25年度の万引きの検挙数は、14歳から19歳までの少年が54件で19%、65歳未満の成人が134件で46%、65歳以上が103件で35%あり、この数年、高齢者の検挙数が少年を上回っている。

と確認された遺跡の内容を確認する後期5年で、今年は前期の4年目になる。今後も基本計画に沿って進めていく。

質問 貯水槽水道の現状と安全な水確保への水道局の役割は。

答弁 マンションなどに設置している貯水槽は2351件ある。有効水量10立方メートルを超える貯水槽は、年1回の定期検査が義務付けられ、衛生上の問題があれば、保健所に報告する。また、それ以下の貯水槽は、水道局がその適正な管理指導、助言などを行うこととし、貯水槽水道の安全な水の確保に努めている。



●エスコートゾーン
●誘導システム

視覚障害者が安全に車道を横断できるよう横断歩道の中央部に敷設した点字ブロックのこと。
ここでは、高齢者や背の低い子どもたちにとって見やすいよう横断歩道の手前に設置した補助信号機のこと。



消防団等充実強化法に伴う対応 耕作放棄地解消の方策

林 恒徳
(志民たかさき)

質問 昨年12月に施行された消防団等充実強化法に伴う、本市の消防団員確保に向けた対応は。また、団員の資格制度は。

答弁 法の施行により、消防団員の確保対策を一層積極的に推進していく。また、現場指揮者となる専門的な研修を受講した幹部の資格制度とともに、一般団員の技術や能力を公認する制度も研究したい。

質問 消防団と自主防災組織との連携は。また、地域防災計画はどうなるのか。

答弁 法律では、一定の訓練を受けた消防団が自主防災組織などの教育訓練に指導的な役割を



中小企業の現状と支援策 雇用確保への支援

石川 徹
(新風会)

質問 法人市民税のうち中小企業からの税収額は。また、中小企業数とその推移、割合は。

答弁 中小企業からの税収額は25億8627万4100円で、全体の42・7%である。事業所数は平成22年度が9568法人で、25年度は9650法人であり、全体に占める割合は91・1%である。

質問 市内中小企業の現状に対する本市の認識と支援策は。

担うとしている。今後、消防団へ地域の防災訓練参加の呼びかけを行う。また、法律の趣旨を十分理解した上で、消防団、自主防災組織のかわりについて地域防災計画を修正したい。

質問 平野部においても耕作されていない農地が点在しているが、耕作放棄地解消の方策は。

答弁 耕作放棄地の所有者に適切な管理をお願いするとともに、利用権設定による農地の貸し借りを推進している。ただ、それぞれ個別に違った事情があるため、その内容を聞きながら、農家の皆様の事情に可能な限り沿うように取り組んでいる。

答弁 原材料等の値上げや消費税の増税等により、先行きの見通しが厳しく、景気回復を実感できていない。支援策として、まちなか商店リニューアル助成制度の創設やさまざまな融資制度を設けているほか、住環境改善助成事業等では施工業者を市内業者に限定して、市内中小企業に仕事が回るようにしている。

質問 本市の中小企業及び小規模事業所の雇用確保への支援策

と商工団体への支援は。

答弁 中小企業退職金共済制度の加入や高齢者等を雇用した事業主に対して、掛金や賃金の一部を補助している。また、高崎



虐待防止への取り組み DV被害者への支援

清塚 直美
(日本共産党)

質問 児童虐待防止への取り組みと対応状況は。

答弁 緊急の場合に備え24時間電話を設置し、誰でもいつでも相談や虐待の通告が行える体制としている。また、啓発活動として、11月の児童虐待防止推進月間に合わせ、オレンジリボンキャンペーンを行っている。

質問 障害者福祉施設での虐待を非正規職員が通報し、雇い止めとなった事例がある。隠蔽を防ぐためにも指導監査の役割が

産業能力開発センターにおけるさまざまな教育訓練や、商工会議所における雇用確保等の経営上の相談等の活動に対して支援している。

重要であるが、職場環境の把握、通報者の身分保全、また、非正規職員等の割合は。

答弁 通報を理由に不利益な取り扱いを受けないことは、法令に規定されており、調査等でのような事例が判明した場合は、



危険ドラッグへの対策 踏切り等の安全対策

高橋 美幸
(公明党)

質問 危険ドラッグに関する認識を深めるため、全中学生に意識調査を実施してはどうか。

答弁 危険ドラッグを含めた薬物乱用防止に関し、今後、更なる意識の高揚と家庭への啓発を図り、中学生期にしっかりとした判断力を身につけられるよう計画的に取り組み、意識調査の実施も検討したい。

質問 和田多中踏切の危険回避のため、歩道整備の考えは。また安全対策について、鉄道事業者と協議の場を設置できないか。

答弁 歩道整備は、現場が非常に狭く難しい状況である。当面、安全点検や歩行者通行帯の路面

改善を指導している。また、パート・非正規職員は全体の3割から4割である。

質問 DVにより避難した場合、学校、生活保護、児童手当、また公営住宅の入居優先権の運用は。

答弁 避難先の通学区の学校に通え、生活保護の受給も可能である。児童手当の手続きは、情報が漏れないよう配慮し、手続きは県を経由している。また、公営住宅の優先入居は、一定の条件で認められており、弾力的な取り扱いをしている。

標示、注意喚起の表示等の対策を実施したい。J・Rとは毎年、踏切道改善促進協議会で協議しているが、和田多中踏切の改良と安全対策について、実効性のある改良方法を協議したい。



質問 障がい者外出支援トイレマップ作成の考えは。また、まちなか商店リニューアル助成事業において、多目的トイレを設置できるようにする考えは。

答弁 トイレマップは、「まっぴでたかさき」に追加するなどの方策を検討したい。現状の助成事業はバリアフリー化の改修工事に対応しているが、さらにより良い助成制度にしたい。



児童虐待防止を啓発するオレンジリボンキャンペーン